

## 実践者にとってコミュニティ音楽療法とは

吉田豊（おんがくファームまんどろ）

音楽療法士は、実践する環境や契約の形態など、個別の事情に左右される種々の条件を受け入れつつ、クライアントに資する音楽活動が実現されるよう最大限の努力を続けています。その際、コミュニティ音楽療法(以下 CoMT)の視点は、実践の新たな方向性を示唆するものと思われま

CoMT の主要な理論家の一人であるノルウェーのステイーゲは、CoMT が必ずしも臨床的であるとは限らないと述べています。これは臨床的な活動の否定ではなく、音楽療法実践が、実際には臨床的効果に留まらない意味を持ち得ることを示唆しています。

また、音楽療法の目的と実践が、いわゆるセラピスト、クライアント間の療法的関係の範囲にとどまらないと同時に、CoMT が大集団での活動を意味するものでもなく、個人よりコミュニティを優先するものでもない、とも指摘しています。

CoMT は特別な手法の音楽療法ではありません。クライアントの変化を促す音楽療法が、私たちが暮らす社会とどのように響き合うのかという、もう一つの視点に自覚を促すのが、CoMT なのだと思います。

ステイーゲは CoMT を定義せず、その代わりに 7 つの特性 (PREPARE) を挙げて説明しています。また実践の原則として 5 つ A (Agenda・Arena・Agent・Activity・Artifact) を挙げています。

私は、CoMT の基本的な考え方に触れていくうちに、場所や道具、さらに実践過程で出会う人々など、これまで周辺事情としか捉えられなかった事柄に積極的な意義を見出し、成果とみるようになりました。また実践を CoMT によって振り返ることで、音楽療法の新たな方向性もみえてきました。

本講座では、まず私がどのように CoMT に接近し、学ぶようになったか、具体的な経緯についてお話しします。

続いて、5 つの A や PREPARE という CoMT の原則や特性を、私自身の過去の実践報告からトピックとして取り出し、説明いたします。そしてこうした振り返りの省察が、実践の新たな方向性を指し示していくことを、皆さんと一緒に考えていきたいと思

なお、本講習は、オンデマンドと会場での対面で行います。オンデマンドのみか、会場も、のいずれかの登録希望をしてください。両方参加の場合も、ポイント・受講費とも 1 講座分です。

昨年度のステイーゲによる基調講演記録 (学会誌 Vol/22No.2 2022) もご参照ください。

### ■プロフィール

26 年間の教員(主に障がい児担当)の後、2001 年からフリーの音楽療法士。認定音楽療法士。三重音楽療法地域推進協会理事、楽器店の音楽講師と連携した音楽療法プロジェクトのリーダー。著書:「発達支援のミュージック (一粒書房)」「うただまの経巡り (文芸社)」「実践・ギターセラピー(おあおぞら音楽社)」ほか。